

UN Womenとの連携・ジェンダー平等の推進

UN Womenとの連携

資生堂は日本企業として初めてUN Womenと契約を締結し、日本においてジェンダー平等を推進するリーダーとして活動することを約束しています。

UN Womenとの取り組み

資生堂は、2017年、日本企業として初めてUN Women（ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関）と契約を締結し、ジェンダー間の格差が根強く残る日本において、ジェンダー平等を推進するリーダーとして活動することを約束しました。今回の契約は、女性の活躍を積極的に推進してきた資生堂と、世界中でジェンダー平等と女性のエンパワーメントに取り組むUN Womenの想いが一致したことから実現しました。今後は、UN Womenが推進する「HeForShe」キャンペーンの社内外への浸透に加えて、若年層とともにジェンダー課題の解決策を考えるワークショップを通じて、性別問わず自分で自分の人生を選択し能力を発揮できる社会の実現を目指します。



HeForSheとは？

HeForSheは、UN Womenによるジェンダー平等のための連帯キャンペーンです。

2014年にスタートし、女性だけでなく男性や世界中の全ての人々が主体的に関わることを目指した取り組みです。

このキャンペーンでは賛同いただける方の署名を募っています。私たち一人ひとりの想いや行動がジェンダー平等を実現する大きな一歩となります。

賛同いただける方はHeForSheへの署名にご協力ください。



ジェンダー平等の推進

高校生を対象としたジェンダー平等啓発ワークショップ開催

資生堂は、「ジェンダー平等」を社内外で推進することで、全ての人々が輝く社会の実現を目指しています。

なかでも、ジェンダー課題が根強く残る日本社会において、2017年よりUN Womenと連携し、これからの未来を担う若年層を対象とした「ジェンダー平等啓発ワークショップ」を推進しています。

このワークショップは、身近なジェンダー課題を学び、人々が固定概念に縛られず自分らしく生きるためにはどうしたらよいかを議論し、解決策を社会に提言するプログラムです。

2018年10月20日には、UN Women日本事務所との共催で、高校生によるジェンダー課題の解決策を提言するイベントを東京の国連大学で開催しました。「日本社会における女性活躍」をテーマとして、日本全国の高校25校が本プログラムに参加し、イベント当日は、その中から厳しい選考を通過した代表高校8校が、それぞれのユニークな解決策を提言しました。講評者として出席した行政、民間企業、NPOの方々からは「我々も大きな気づきがあった。ぜひ若い世代からもアクションを起こしてほしい」と高校生を激励するコメントをいただきました。提言発表後にはEU次期駐日大使から「海外におけるジェンダー平等への取り組み」に関する講演をいただき、グローバルな視点でジェンダー課題を考える1日となりました。

ワークショップに参加した高校生からは、「今までは自分ができることなんて小さいと思っていたが、高校生だからこそ自分が行動し、周りの意識を変えていくことがジェンダー平等につながると思うようになった」、「まずは自分たちができることから行動していきたい」、といった頼もしい声が多く聞かれました。

資生堂はこれからも、未来を担う若い世代とともに、ジェンダー平等をはじめとする真のダイバーシティ社会の実現に向けて活動していきます。



高校生による発表の様子



参加した高校生たち



2017年度ワークショップの様子

目標と実績

- ・ 目標：2017-2018年で1,000人に対してジェンダー平等を啓発する
(2018年度10月末時点 実績：505人、累計1,005人)
- ・ 2018年度実績：日本全国25校の高校生を支援
- ・ 2018年からの新たな取り組みとして、ジェンダー課題を学ぶ資生堂独自のジェンダー平等推進教材（UN Women 日本事務所 監修）を参加校へ配布し、高校生自らのアクションプラン作成に活用した。

「国際女性デー」をきっかけとした女性活躍支援の取り組み

3月8日の「国際女性デー(International Women's Day)」を機に、女性が女性であることに誇りを持ち、もっと輝いてもらいたいという想いから、2018年のこの日、「ピンク」をテーマカラーにHappy Women's Dayイベントを開催しました。



Happy Women's Day店頭キャンペーン

銀座エリアのデパートカウンターでは、ご来店されたお客さまに、テーマカラーのピンクメイクを中心に一人ひとりの美しさを引き出すメイクアップをご提案するとともに、ささやかな記念品を差し上げました。

ビューティコンサルタントを通じ、年に一度のこの記念日にこめた資生堂の想いを多くのお客さまに届けることができました。



GINZA SIXの特製フォトブース前にて

トークイベント「"Happy Women's Day" あしたのわたしへ」の開催

国際女性デー当日の夜、トークイベント「"Happy Women's Day" あしたのわたしへ」をBuzzFeed Japan株式会社と共催しました。

メインのトークショーでは、スペシャルゲストに滝川クリステルさんをお迎えし、「2020にむけて～日本の女性に伝えたいこと」をテーマに、ご自身のニュースキャスターとしての経験やフランス生活で培った価値観をもとに、女性の働き方・生き方についてお話ししました。



自らの経験を語る滝川さん
Kazuhiro Gohda for BuzzFeed

更にトークの後は、ゲストの滝川さんより、過去の自分や誰かに対する応援や反省の気持ちを綴ったつぶやきを募集したTwitterアワード「#あのときのわたしへ」の結果発表が行われました。

資生堂賞の作品

育休明けのお母さん同僚に向かって「私がやっときますから早く帰ってあげてください。お子さんにとってお母さんの代わりはいませんし。」と言った #あのときのわたしへ。悪気はなかったし親切のつもりだったんだよね。でも、言われたお母さん悲しそうだった。もっと相手の気持ちを汲める人になろう。（らのじさん @Rano_Zy）

また、資生堂の島倉研究員より、「Power of Pink」と題し、今回テーマカラーとした「ピンク」という色をもつイメージやヒトの心に与える影響などについての講演も行いました。「Something Pink」を身につけた参加者に対し、ピンクは多くのヒトにやさしさや思いやりを想起させる、社会性の象徴といえる色であり、自分自身や相手の心や気持ちを考える日にふさわしい色。ピンク色を身にまとい、性別・国籍・年齢関係なくお互いを思いやりリスペクトしあうことを、この日に改めて皆さんに思い起こしてほしい、そんな願いを込めて今回のテーマカラーを「ピンク」にしたという主催者の思いを伝えました。

資生堂は、創業者・福原有信が唱えた「働く女性観」をDNAとして受け継ぎ、明治の創業期から現在にいたるまで女性活躍支援活動を継続しています。「女性を輝かせる企業」として、これからも積極的に社会に対してさまざまなアクションを起こしていきます。



島倉研究員の講演



参加者で記念撮影